



港南中便り

第20号

学校公式ホームページ <https://konan-j.esnet.ed.jp/>

新しい世界を切り開く！！ — 未来へのスタートライン —

先週、私立高校の推薦入試が終わりました。本日は国立高校の推薦入試が行われています。そして、来月の2月5日から私立高校の一般入試、2月7日は、県立高校の推薦入試があります。

生徒たちは、この港南中で学んだことを胸に、**未来へ飛び立つスタートラインに立ち始めました。**新しい世界を自分の力で切り開くように頑張ってくれることを期待しています。

以下は私立高校の推薦入試の面接での質問等です。入試を経験して、どの生徒も一段と成長したようです。



< 面接で質問されたこと >

- 本校を志望した理由は何か。
- 高校に入学してから頑張りたいこと、やってみたいこと、抱負は何か。
- 港南中のPRは何か。 ○ 最近、気になったニュースは何か。
- 中学校での部活動の思い出は何か。 ○ 高校では何部に入部するか。3年間努力できるか。
- 苦手教科は、何か。それをどう克服したらよいか。

< 作文の題名 >

- あなたは今まで、さまざまな場面で英語などの外国語に接してきたと思います。その中で「**外国語を学ぶこと**」についてあなたが考えたことを、後の**注意**に従って作文しなさい。

< 自分が今後にかすこと >

- 入試本番は、とても緊張していたけれど問題に向き合い、解くと落ち着きました。基本的な問題が確実に解けると落ち着きます。これからも基礎・基本を大切に集中して勉強していきたいです。
- **高校入学前に、苦手教科をしっかりと勉強して、少しでもできるようになって高校生になりたい。**
- 今回の入試の面接で、人と話すことがあまり得意でないことが改めて分かった。これから、授業で自分の意見を発表したり、近所の人と話を積極的にしたりして、コミュニケーション力を高めていきたいと思った。
- **人生で初めて受験してみて、改めて今まで支えてくれた人に感謝をしなければいけないと思いました。これからもいろいろな人に支えてもらうと思うので、感謝を忘れずに生活したいです。**
- 面接で笑顔で明るくはきはきと受け答えできたのは良かったです。ただ、言葉には詰まってしま

いました。これから日頃から多くの人とたくさん話をし、話すことの苦手意識を減らしたいです。
 □ 入試が終わったからといって気を抜くのではなく、高校でも力を伸ばせられるようにこつこつと勉強していきます。また、部活動の面でも今から腕を磨き、レベルアップしていきます。

< 来年入試を迎える後輩へのアドバイス >

- ☆ 前日は、絶対に早く寝ること。朝ご飯をしっかり食べること。
- ☆ 今まで頑張ってきた自分に自信を持って受験する。
- ☆ 行きと帰りの電車の時刻を調べておいたらいいです。忘れ物をしない。
- ☆ その高校の過去問を必ず解いておくこと。また、入試の時、腕時計を忘れずに持って行く。
- ☆ 受験勉強に必死に頑張るためには、普段の積み重ねとテスト前の勉強が大事だと実感しました。
- ☆ いつでも、どこでも試験官の人は見ている。騒がず、背筋をのばして座っておくとよいです。
- ☆ 作文は意外と時間がないので、思いつくことを素直な表現で書きましょう。
- ☆ 初めてなので緊張します。が、大丈夫！！とりあえず笑顔で明るく挨拶したり、答えることです。面接する部屋に入る前に深呼吸すると良いです。
- ☆ 面接の時は、練習していない質問がきます。でも、瞬時に頭の中で整理して返答できるように、普段から自分の頭で考え、考えたことを話すことを心がければ良いと思います。
- ☆ 質問に対して「はい。私は、～」と、まず、「はい。」と言うと、言葉が続いて出てきます。

シンギュラリティ(技術的特異点) - 10年後、20年後の自分のために！ -



変化の大きな波が、私たちに覆ってきています。

現在の子どもたちの65%は、将来「今は存在しない職業」に就くのだそうです。考えてみれば、私たちが子どもの頃、コンビニエンスストアや携帯電話、スマートフォン、介護サービスを提供する職業が、こんなにも社会の中で増えてくるとは、想像もしませんでした。子どもたちは未来社会で、「今は存在しない職業」に就いていくことになります。加えて、科学技術の発展により、**2025年には、AGI(汎用人工知能もしくは人工汎用知能)により、人間が担うほとんどの仕事が機械に置き換えられる**、と予測されています。そして、**2045年には、人工知能(AI)が、人間の脳を超える「シンギュラリティ(技術的特異点)」に到達すると、人工知能の権威であるレイ・カーツワイル博士は、予測しています。**

つまり、収入を得るための**仕事が、機械に奪われ始める社会が、約5年後(中学生が18~20歳前後)、AIが人間と同じ意識を持ち、「人間の脳を超え」始める社会が、約25年後(中学生が38~40歳前後)に現実になると予測されているのです。**

10年後、20年後の未来社会を生きる生徒たちは、「**自分を自分で磨く力(学ぶ力)**」が、より求められています。

主な「消える職業」「なくなる仕事」	
銀行の融資担当者	
スポーツの審判	
不動産ブローカー	
レストランの案内係	
保険の審査担当者	
動物のブリーダー	
電話オペレーター	
給与・福利厚生担当者	
レジ係	
娯楽施設の案内係、チケットもぎり係	
カジノのディーラー	
ネイリスト	
クレジットカード申込者の承認・調査を行う作業員	
集金人	
パラリーガル、弁護士助手	
ホテルの受付係	
電話販売員	
仕立屋(手縫い)	
時計修理工	
税務申告書代行者	
図書館員の補助員	
データ入力作業員	
彫刻師	
苦情の処理・調査担当者	
簿記、会計、監査の事務員	
検査、分類、見本採取、測定を行う作業員	
映写技師	
カメラ、撮影機器の修理工	
金融機関のクレジットアナリスト	
メガネ、コンタクトレンズの技術者	
殺虫剤の混合、散布の技術者	
義歯制作技術者	
測量技術者、地図作製技術者	
造園・用地管理の作業員	
建設機器のオペレーター	
訪問販売員、路上新聞売り、露店商人	
塗装工、壁紙張り職人	